

Love in Saijo

～ お堀プロジェクトで地域活性化 ～



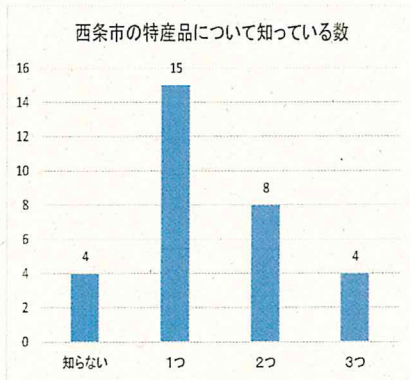
愛媛県立西条高等学校

商業科3年 日野翔太・清野辰吾・近田愛海・西坂 暢

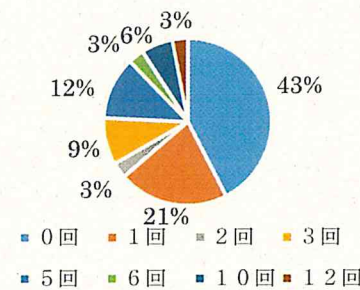
他34名

1 はじめに

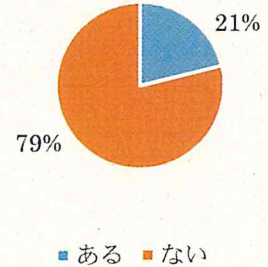
西条高校は、お堀に囲まれ大手門を持つ全国的に見ても珍しい学校である。大手門は江戸時代後期から末期の建築様式が用いられていることから、1800年から1840年頃のものと言われている。私たちは、この歴史ある学校の商業科に所属している。平成28年に、地域に関する意識調査を行っているが、多くの人が地域のことをあまり知らず、地域の人々とのコミュニケーションを行っていないという結果になった。そこで、このアンケート結果を踏まえて、少しでも地域とのコミュニティづくりを大切に、積極的に地域と関わっていくことが大切であると考えた。



地域イベントに参加した回数



地域の方々とのイベントの開催経験



2 仮説

意識調査を分析した結果を踏まえ、高校生活の3年間で、自分たちのアイデアで地域のために何ができるかを研究・実践していきたいと意見交換を積み重ねた。その結果、お金をかけずにイベントを企画することで地域貢献できる方法を考え、具体的な提案を次の3つに絞った。

(1) 地域の方々と一緒に創るイベント企画

地域で活躍している芸術団体と連携して企画・運営する取り組みを実行することで、地域とのコミュニティづくりを図りたい。

(2) 文化資源を活用した街づくり

西条藩陣屋跡にある江戸時代の大手門やお堀を利用したイベントの企画を考えたい。また、無形の民族文化財に選択された「まぼろしの石鎚黒茶」の広報活動を行うことによって、地域の魅力を再発見するとともに、地域の文化や歴史について理解することができる。さらに、大手門に商業科生徒が作成したプロジェクションマッピングを投影することで、本校の魅力についても発信したい。

(3) 森林保護や環境問題を考える

西条市大保木地区では森林保護のために毎年竹を伐採しており、その竹を活用して竹灯籠の制作や竹炭作りができるのではないかと。また、「エコろうそく」の制作により、賞味期限切れの油を有効利用した活動につなげられる。これらは、地元のものを使うことができ、再利用をすることで環境にも優しい活動が発信できる。

3 企画内容

企画名	内容	参加・協力団体
お堀でカメラ体験	文化祭にてカメラ体験	西条市カメラ協会
光り輝く大手門 ～世界へ繋がるライトアップロード～	竹灯籠と噴水によるライトアップ	合唱部・吹奏楽部・書道部・ダンス部 小学校の合唱部・祭彩華
WELCOME TO HALLOWEEN PARTY	プロジェクションマッピングの投影	合唱部・ダンス部・道前太鼓・フラダンス・よさこい

クリスマスイベント	竹灯籠・プロジェクションマッピングの投影	合唱部
Project Earth ～アースデイをお堀から発信！～	災害時の講習・竹炭のプレゼント・プロジェクションマッピングの投影	日本音楽部・合唱部・吹奏楽部・フラダンス・ダンスチーム

4 実践

第1弾は、お堀を活用した取組として西条市カヌー協会の講習を受けた後、文化祭で『カヌー体験』を実施した。本校の生徒だけでなく、地域の小学生も参加し、楽しかったという意見やお堀から見る景色がきれいだったという意見をいただくことができた。しかし、体験した人数は24人と少なく、まだまだ魅力を大勢に発信するところまでは至らなかった。

文化祭での様子



第2弾では、『大手門・お堀の魅力を再発見』というコンセプトに基づき、大手門周辺のライトアップにより地域の皆さんに楽しんでいただけたと考え、期限切れ油を回収し、自分たちでろうそく作りを行い、竹の切り出しから運搬・竹灯籠の制作を行った。そのほかにも、市内の地域芸術団体の方々や本校の合唱部・書道部などによるミニステージや西条市の特産品である『まぼろしの石鎚黒茶』の試飲を実施し、アピール活動も行った。



第3弾では、ハロウィンイベントをテーマとして、地域の子どもたちをターゲットにし、自分たちで制作したプロジェクションマッピングを大手門に投影という企画を実施した。大手門に投影することで、大手門の魅力をより発信できた。そして、前回に引き続き『祭彩華』の踊りに加え、『道前太鼓』の演奏や『フラダンス』など市内で活躍されている芸術団体の方々に協力をいただいた。さらに、西条高校の先輩が考案したライスバーガーの『サンチャー』の販売も行い、地域の方々から好評を得た。



第4弾では、前回に引き続き、プロジェクションマッピングを投影するとともに、第2弾の際に地域の方々から好評であった竹灯籠の点灯をもう一度行った。急なことだったため竹灯籠は昨年のもを使用し、ろうそくは再度自分たちで制作した。竹灯籠約120本をお堀の周りに並べることで、幻想的な雰囲気味わっていただけた。当日、新聞に掲載されたこともあり、遠方から来ていただいた方もおられ、たくさんの方々満足していただけた。



第5弾では、今までの「お堀プロジェクト」とは少し違う『Project Earth ~アースデイをお堀から発信!~』をテーマに、綺麗で美しい自然に囲まれた西条高校のお堀や大手門だからこそ発信できるイベントとなった。「地球の環境をみんなで考えよう」を目的に、世界的に様々なイベントが開催されている4月22日にイベントを実行した。そこで、今までの「お堀プロジェクト」で使用した廃棄予定であった竹を再利用し、自分たちで竹炭を作ることにした。竹炭には、消臭浄化や有害物 ↑ろそうそく作り 物の ↑竹灯籠の準備果があるため、150袋用意して「お堀プロジェクト」に米しくたさった方に無料で提供した。また、事前に市役所の危機管理課に行き、西条市の防災の現状などを学んだ。アースデイ当日は、約200人の来場者に対し、防災についての発表や災害時におけるライフラインの確保に関する講習会、災害時に薪ストーブを使って簡単にできる「ポリ袋クッキング」の実践を行った。また、プロジェクションマッピングも地球環境をテーマに制作した。今回の「お堀プロジェクト」は、地域の災害対策も知ってもらえたことと確信している。



↑燃やす前

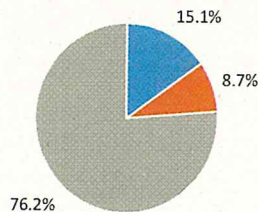
↑燃やした後

↑ホットケーキミックス
で「ポリ袋クッキング」

5 検証と課題

私たちは、これまでに5回の「お堀プロジェクト」を企画・運営し、様々な年齢層の来場者を楽しんでいただくことができたと思う。来場者数も回を重ねるごとに増え、認知されるようになった。毎回、「お堀プロジェクト」の前後にはアンケート調査を実施・検証している。第5弾でのアンケート調査結果の一部を紹介したい。(調査人数 学生 865名、社会人 103名) アースデイの認知度は、約8割の人が「知らない」という結果であった(図1)(図2)。

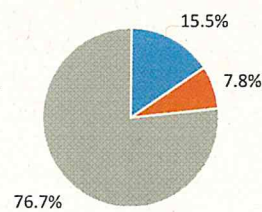
アースデイを知っているか(学生)



■ 知っている ■ 日付は知っている ■ 知らない

図1

アースデイを知っているか(社会人)



■ 知っている ■ 日付は知っている ■ 知らない

図2

次に「地球の環境を良くするために日頃から実践していること」を調査した。学生は「ごみの分別」が1番多く、2番目には「節水、節電」が多かった(図3)。社会人は「冷暖房の温度管理」が1番多く、2番目には「ごみの分別」が多いという結果であった(図4)。

環境改善のためにやっていること(学生)

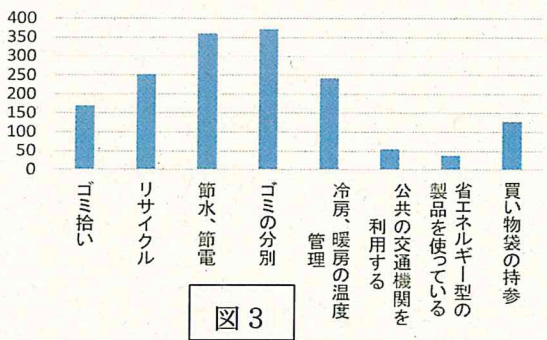


図3

環境改善のためにやっていること(社会人)

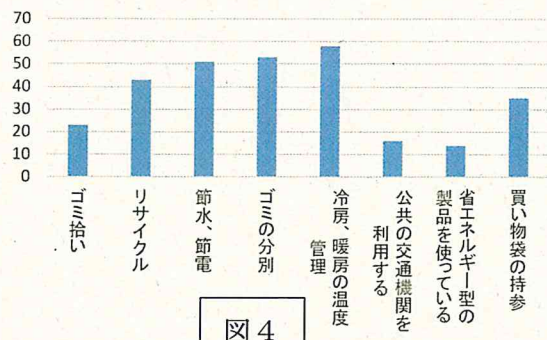


図4

「地球の環境は10年前より良くなっているか」の問いには、半数以上の人々が「悪化」もしくは「やや悪化している」と回答した人が多く、学生の方が顕著であった(図5)(図6)。

この結果から、地球環境について考える機会をもっと増やし、地域全体で取り組んでいかなければならない問題であることが分かった。今回の「お堀プロジェクト」を企画・運営するに当たって、アースデイについて認知度を上げることはできたと考える。しかし、これが一時的なもので終わるのではなく、今後も発信し続けることが大切であり、私たちの使命であると感じた。

地球環境の良し悪し(学生)

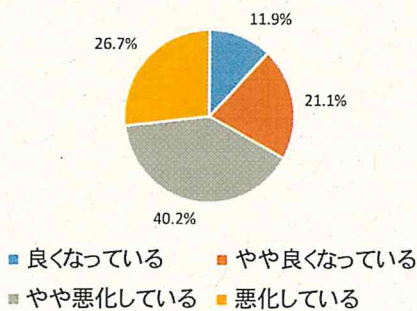


図5

地球環境の良し悪し(社会人)

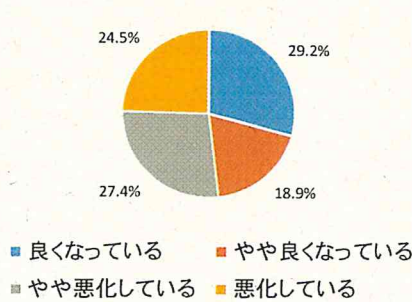


図6

地域イベントに参加した回数(3年生)

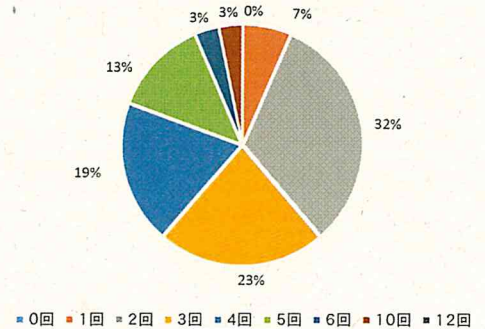


図7

6 終わりに

「お堀プロジェクト」は商業の授業で学んだことを生かしながら、高校生の行動力・発想力を生かして学生自らが運営していくイベントである。「お堀プロジェクト」を実行するためには、有志の方々や地域住民の協力を得ることで、地域とのコミュニティの大切さを実感した。これらの活動は、市民を巻き込んで地域活性化に取り組んでいる。地域のことをあまり知らなかった2年前に比べて、地域の温かさに触れる機会も多く(図7)、ますます西条が好きになった。「お堀プロジェクト」は、私たち高校生の貴重な経験にもなり、多大な成果が得られた。このことは私たちの実践力のスキルアップと地域の活性化につながっていると考えられる。

私たちが在学している高校の歴史ある「大手門」と「お堀」、「水の都西条」の魅力を、精一杯のおもてなしとパフォーマンスで、市民の皆さんに再度認識してもらうとともに、市外の方には西条の良さを知っていただくことが、私たちの考える地域活性化である。私たちの活動が、西条高校の恒例イベントになるよう、次の世代に引き継ぎたい。